

出羽三山御神縁九十五周年

大市神山 出羽三山登拝



七月十八日、出羽三山合祭殿に向
けて出立す。此の十五日付にて、権
宮司の阿部良一先生が宮司に就任な
されたとのことで、お祝いと表敬参
拝をさせて頂いた。一時間程歎談し
その後、正式参拝を申し上げ、斎館
でお昼を頂きながら、教団と三山さ
んとの交流を少しく語らせて頂いた
昔のことは教団職員も、三山神職の
方も伝えられる事もなく消えている
を知るものであつた。羽黒山の杉並
木参道階段の両側の墓石を土中より
掘り起こし整理したこと。数年に亘
り何日間も参籠しての奉仕であつた
こと。月山に鉄棒を運びて道中の風
雨の時に縋る網を張る為に鉄棒杭を
打つたこと。これは私も高校・大学
の頃に奉仕した記憶がある。こうい
うことがほとんど語り継がれてはい
ないことを知るものであつた。阿部
良一新宮司も色々驚いておられた。
私もその様な年になつたのかと。そ

七月、文月に入った。この月は三
山登拝行事が執行される。一日の月
始祭後の全体会議並特別講習会にて
教化布教の推進すべく方を指導す。
どれだけの動きがなされるかと。
四日には秋田の信者の方が来山さ
れ特別神事を執行す。五日は岩手盛
岡の方の特別神事、また東京の方の
司法試験合格を願う祈願もなしてき
た。七月中旬、四日間の筆記試験、
成績発表は八月三日、合格発表は十
月八日という。是非とも願いを叶
えて頂きたいものと信念するものであ

八咫鏡と太陽を
かたどつたもの
で、國家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

神 紋

自ら行に足を踏み入れて
心身を鍛えるのは、率先
して自力を振り起こす
習慣をつけるためである。
(大和神典第四之三五〇言)

して、教職員にも語り継ぐべきであつた。私が月山頂上で一斗余も酒を呑み干し下山した話は伝説的に伝えられてゐるようだが、その如き人間が教団の神事をやらねばの立場となり、ピタリと酒、タバコを慎しみ修行に入つたことも、全てが神の議りではあつたのだが。酒、タバコを断つに何の苦痛もなきことは正に神の岡りであつたを覚るものであつた。二十年を経て、年に一度は口にすることもあつたが、今は口にすることもなくなつた。幽世に行つてから頂こうかと思つてゐるが、神の任にではある。阿部良一新宮司と楽しい一時を頂いた。現在、登拝者数は昨年並みで

はあるが、神事関係が大幅に減じて
いるようだ。二十九日、三十日まで
にどれ程の回復ができるであろうか
を懸念するものである。

二十二日の第一班出発の班にて、
翌日の月山登拝をなし、娘さんと共に
に登頂していたご婦人が頂上手前に
て転び、石に額を打ち出血、歩けぬ
のごとにて一一九番通報。結果、防
災ヘリ出動となつた。天候よく頂上
付近に着地となり酒田市の病院に搬
送された。一步誤れば生命にかかわ
る大怪我となつたが、大神の助けを
頂く祈蹟を拝した。月山本宮奉仕の
奥井権禰宣の「へりを願い、自力下
山はさせぬがよいのでは」との助言
を頂いて、山係と里係（八合目での

月山大神、羽黒大神、湯殿大神、大和大神に深き頭を垂れ感謝の祈りを申し上げさせて頂いた。本部車は午後八時頃大國神社に到着、参加の姉夫婦と共に福島原町へ帰ることができた。担当教師も夕食弁当等々のお世話をなしたるをも聞き及びしました。心よりの感謝をもつて帰られたという。明日は北海道に帰られるとも。長い一日となつたが、大神様、そして多くの方のお力をもつて、大難が小難にて守られ救われしの御蔭に改めて手を合わせるものであつた。

大神様の私共への何らかの御諭しをも示されたものと、深き審神者をせねばなきを悟證するものである。

二十九日、三十日の班に何事もなきを重ねて祈り、奉仕に心せねばないものと、心固めるものであった。

総長に指示をし、月山本宮の奥井権祿宣、鶴岡市消防本部に御礼と経過報告をさせて頂いた。

月山大神、羽黒大神、湯殿大神、大和大神に深き頭を垂れ感謝の祈りを申し上げさせて頂いた。本部車は午後八時頃大國神社に到着、参加の姉夫婦と共に福島原町へ帰ることができた。担当教師も夕食弁当等々のお世話をなしたるをも聞き及びしたり。心よりの感謝をもつて帰られたという。明日は北海道に帰られるとも。長い一日となつたが、大神様、そして多くの方のお力をもつて、大難が小難にて守られ救われしの御蔭に改めて手を合わせるものであつた。大神様の私共への何らかの御諭しをも示されたものと、深き審神者をせねばなきを悟證するものである。

二十九日、三十日の班に何事もなきを重ねて祈り、奉仕に心せねばないものと、心固めるものであつた。総長に指示をし、月山本宮の奥井権祿宣、鶴岡市消防本部に御礼と経過報告をさせて頂いた。

五
日



五周年を記念して本社が再建され、より六十年周年を迎えた。更には月山卯歳御縁年という有難き年の巡りであった。

早朝の大國神社に集う参行者は、先ず正参道にてそれぞれの御下駄を受けて、神変神社にて道中安全、願い事の成就をご祈念申し上げ、神変御下駄踏神行を執り行い、御本殿、大國広前三山大神各社を順に参拝をした後、祈祷殿へと入殿、斎主嗣親様のもと、特別火祭護摩祈祷を申し受けた。

儀式後、嗣親様より、「年に一度

本年の大市神山・出羽三山参詣登拝行が七月二十二日を第一班として執行された。

令和五年三山紀行

祭儀部次長 熊川知長

月山中ノ宮御田ヶ原にて御来光を拝す (7/23・第1班)

しつかりと願われ、必ずや心願成就なされますようにお祈りを致します。



奥井坊にて記念撮影 (7/22・第1班)

大和の教信奉者は
五人善導の奉謝行を
実践致します。

て下さい。これ
ものを除いて、幸
頂けますから、し
つかりと唱えて
頂きたいと思いま
す。



身支度を整え月山登拝行を開始（7/23・第1班）

の出羽三山登拝の修行です。修行は楽しいものです。沢山のご神徳を賜れます。皆さんが大神様に

でも、毎日でも唱えて下さい。これを唱えれば、悪いものを除いて、幸せを、大きな力を頂けますから、しつかりと唱えて



宿坊にて感謝奉告祭を斎行（7/22・第1班）

暫し自由参拝の後、宿坊へと向い、到着後、先ず道中安全祈念祭を斎行。先達教師により、翌日の月山登拝道中安全祈願、各人の清祓、教導がなされ登拝年掛証授与式を申し修めた。儀式後、嗣親様のお言葉を教師が代読を申し上げ、登拝の心構えをお伝えさせて頂いた。各自、入浴潔斎を済ませ、宿坊での精進料理を頂き、翌日に備えての早めの就寝となつた。翌朝、午前二時前には起床し身支度を整え、二時半にはバスにて宿坊を発ち、一路月山八合目を目指した。月山八合目は朝のうちは曇り、ところどころ霧雲があり、涼しさも感じる程であつた。準備運動、説明を

道中、寒河江パークリングで休憩を済ませ、無事、湯殿山神社へと到着、巡回バスにて御本宮麓に到着すると、そこからは徒歩にて御本宮・御神体へと進みそれぞれがご祈願、ご供養を申し上げた。

続く、羽黒山出羽神社では、境内地にて自由参拝を申し上げ、午後二時より三神合祭殿において、太々神楽をご奉納申し上げた。厳粛なご祈祷、厳かな雅楽の音色と巫女による舞を拝した。

り。本部教的道に付説のことでも付
でも言つて下さい。この行中は、悪
い言葉を吐いたり、悪い思いを持つ
たりしないで下さい。何かに腹をた
てたり、感情的な想いになつたら、
トホカミエミタメ」と神言を念じて、
そしてこの福を求むる言靈を唱えて
下さい。足尾権現大神様が今年は殊
に足元に気を付けてとのお諭しを下
されております。声を掛け合つて、
助け合つて、明るく楽しく、素晴らしい
行にして頂きたいと思います。
それでは元気に出羽三山登拝行、行
つてらっしゃい。」と、御教説を頂
き、一路バスにて湯殿山神社へと向
かつた。

途中チエリーランドで休憩を挟みながら夕刻大國神社に到着した。到着した一向は御本殿にて、無事登拝帰還させて頂いたことへの感謝を申し上げ、帰路へと着いた。第一班以降も夏山期間中は、班ごとに順次登拝を行い尊い登拝行を修めた。

本教の三山登拝行は、出羽三山の信仰と民俗文化の継承、先祖供養を自らの足で赴き行を修める尊い修行なのである。

近年の信仰形態は新たなる時代を迎えているが、来年以降も決して灯を消すことなく更なる導きを行いより一層盛上げていくことをお誓い申し上げるものである。



羽黒山にて海外よりの観光客との交流 (7/30・第5班)

10月1日	10月5日	10月11日	10月15日	10月22日	10月28日	10月29日
月始祈願祭	神光龍神祭	親神感謝祭・祖靈万靈祭	御魂結之神儀(～8日)	月次祭	神子祈願祭	大和地藏慰靈祭
六根修養会	秋の清掃奉仕	開祖祭				

10月行事予定表

9月1日	月始祈願祭
9月5日	神光龍神祭
9月11日	親神感謝祭・祖靈万靈祭
9月15日	延命長寿祈願祭
9月17日	敬老祝賀会
9月23日	月次祭
9月25日	神子祈願祭
9月28日	大和地藏慰靈祭
六根修養会	金剛藏王大神年祭 故保積敬一郎之命七十三年祭 故保積子ヤウ之命七十四年祭 万燈慰靈祭

大和教団ホームページ
にて教主様のお言葉
(ブログ)が日々更新
されております

大和教団 TEL 022-261-2525
<https://taiwakyodan.org/top/>

出羽三山神社表敬参拝

羽三山神社を表敬参拝なされた。

羽黒山頂の三神合祭殿に

到着すると、七月十五日付

で新宮司にご就任なされた

阿部良一宮司のお出迎えを

頂き、先ずは貴賓室へとご

案内を頂いた。

暫しの歓談の中で、宮野

直生前宮司は名譽宮司とな

られたこと、また、本年は

月山卯歳御縁年にて、多く

の参拝者が来山されてい

ることで、境内地をはじ

め、様々な事業を開拓して

おること等の説明を頂き、

教主様からは此度の宮司就

任のお祝いを丁重に申し上

げ、本年の夏山登拝受入の

お願いを申し上げた。引き

続き、拝殿へと移動し、正式

参拝を申し修めた。正式参拝の後、

斎館へとご案内を頂き、阿部宮司と

共に精進料理を賜りながら、本教と

出羽三山との関わりや、今後の三山

登拝行を教化推進し、御山繁昌とな

くお話を申し上げ、阿部宮司の

お見送りを受けての帰山となつた。

開祖様より受け継がれてきたこの

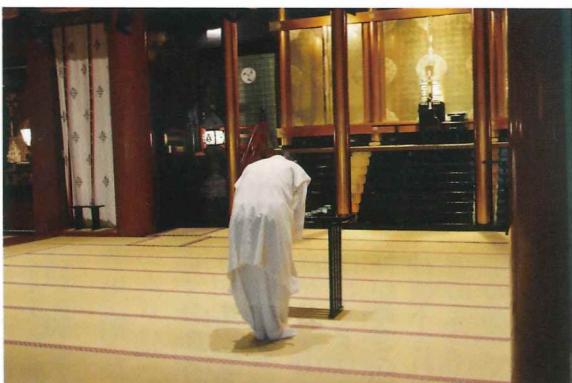
出羽三山の信仰を未来永劫に大切な

修行、供養、心づくりの道場として

励んで参りたいものである。



新宮司に就かれた阿部良一先生と教主様



三神合祭殿にて玉串を奉奠なされる教主様

教化費御奉納

出羽三山神社様

金式拾萬圓也

衷心より感謝申し上げます

羽黒山頂の三神合祭殿に到着すると、七月十五日付で新宮司にご就任なされた阿部良一宮司のお出迎えを頂き、先ずは貴賓室へとご案内を頂いた。

暫しの歓談の中で、宮野直生前宮司は名譽宮司となられたこと、また、本年は月山卯歳御縁年にて、多くの参拝者が来山されていることで、境内地をはじめ、様々な事業を開拓しておること等の説明を頂き、教主様からは此度の宮司就任のお祝いを丁重に申し上げ、本年の夏山登拝受入のお願いを申し上げた。引き続き、拝殿へと移動し、正式参拝を申し修めた。正式参拝の後、斎館へとご案内を頂き、阿部宮司と共に精進料理を賜りながら、本教と出羽三山との関わりや、今後の三山登拝行を教化推進し、御山繁昌となくお話を申し上げ、阿部宮司のお見送りを受けての帰山となつた。開祖様より受け継がれてきたこの出羽三山の信仰を未来永劫に大切な修行、供養、心づくりの道場として励んで参りたいものである。

長年に渡り三陸気仙沼の地にてご奉仕を下され、篤信者として本教にご尽力頂いた片桐喜七さんが七月二十二日に帰幽された。

片桐さんご夫妻は開祖様の御代より氣仙沼において大和の信仰生活を送られ、漁業を営んでいたことから、数多の海の幸をご奉納下されてきた。

此度は三山登拝期間中の突然の訃報となつたが、七月二十四日に斎主嗣親様のもと、祭員熊川知長祭儀部次長、鈎持敦子教師、鏡令宏教師にての儀式奉仕となつた。

始めて遷靈祭をご奉仕申し上げ、御靈代に御靈をお移し申し上げた。次に発柩祭を仕え奉り氣仙沼市内の火葬場へと移動、火葬祭を斎行す。惜しまれつつ皆のお別れを頂きな



斎主嗣親様による葬場祭詞奏上

故人を偲び、この日は参列者も心静かに御靈の安寧をお祈り申し上げた。明くる二十五日に葬場祭が斎主嗣親様のもと執行され、参列者は思い思いに玉串をお捧げして故人へお別れを申し上げた。故片桐喜七大人の命は今後、大和帰神墓に埋葬される予定である。

片桐さんの生前のお働きに感謝し奉り、御靈の安鎮を幽冥主宰大神に乞い祈み申すものである。

がら荼毘に伏された。

続いて葬祭場へと移り、通夜祭が厳かに執り行われた。

故人を偲び、この日は参列者も心静かに御靈の安寧をお祈り申し上げた。

万燈慰靈祭

開祖様御尊父
故保積敬一郎之命七十三年祭
開祖様御母堂
故保積チヤウ之命七十四年祭



万燈慰靈は提灯供養とも云い伝えられ、「御灯明の御靈光のごとき明るい心で、そして美しい心をもって御靈に慰靈のまことを捧げよ。」と教え諭されております。

万燈の御靈光は靈界を照らし、私たちの運勢を明るく照らして下さいます。また「供物そなえぬ供養なし」とも言い伝えられるごとく、供物とお花、奉謝料をも真心込めてお供え致しましょう。

だいこくさま
みて
大國主大神様の御手にすがり
しあわ
幸せにみちびかれましょう



あなたの
ひとごえ
声が

多くの人をお救いします

計報

申

銚持咲子様

山形県庄内地区において、永年に亘り役員として本教護持伸展のためにご尽力を下されました銚持咲子様が八月四日に帰幽されました。謹んでご生前のご功績を偲び、御靈の安らかならむことをお祈り申し上げます。